



ID: 1348

科目名	現代の日本社会【26年度生用】			コード			
英語表記	Modern Japanese Society						
担当教員名	佐々木 嘉治			年度	平成26年度		
基準年次	1年次	開講期	後期		単位数		
授業形態	講義	授業形式			履修形態		
2							
選択							
授業概要							
戦後まもなく世界第二の経済大国に躍進した日本は“日出る国の奇跡”と賞賛されたが、今や巨額の財政赤字、大震災復興、超少子高齢化など数々の難題を抱え“極東の日沈む国”とさえ呼ばれる。未来を背負う若者も早くからこうした問題の所在を理解し、共に手を携え切り開いてこそ道は開ける。資源が少なく人口減速社会の日本は今後「豊かな福祉文化国家」の道を目指すべきという視点に立ち、これらの課題にどう対処すれば良いかを考える。							
到達目標							
日本の課題を自らの問題として考えその解決策や改善策を探ることで、この国に生きる(学ぶ)人間としての自覚や認識を強くしてもらう。							
授業計画							
第1回	何を学ぶか。日本人・外国人が見る今の日本社会。授業の注意点など						
第2回	少子高齢化 世界一「少子高齢化」の課題						
第3回	無縁社会 核家族化と高齢化で広がる「無縁社会」						
第4回	環境 「公害列島」から「エコ先進国」へ						
第5回	平和 平和発信、国際支援で世界に貢献する自治体						
第6回	医療 進む医療崩壊をどう食い止めるか?						
第7回	食料 「飽食の国」の食糧危機						
第8回	教育 日本再生のための教育とは?						
第9回	若者 日本の若者は今						
第10回	スポーツ スポーツの社会力とテレビ～東京五輪で”日本力”の発信を～						
第11回	ポップカルチャー 「ポップカルチャー」で日本の活力発信を!						
第12回	メディア 混沌の時代のマスコミの役割						
第13回	情報行動 膨張するネット・ケータイ社会の光と影						
第14回	大災害対策 復興は進んだか?大震災・原発対策は?						
第15回	明日の日本 「豊かな福祉文化国家」づくりの条件						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
授業態度を含めた出席率と期末試験の成績は4対6の割合で評価する。試験を除き、5回以上の欠席者には原則として単位を与えない。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				40%		60%	
授業外学習			テキスト、教材				
毎回配付する翌週分レジュメはA3一枚なので、その週のうちに目を通し授業に備え、授業中は積極的に質問を行うこと。			レジュメA3一枚に加え、ニュース・番組などのビデオや新聞のコピーなど最新情報を活用し「リアルタイムの日本社会」を“いま”感覚で分かりやすく理解させる。				
参考書			受講生へのメッセージ				
授業の中で適宜紹介する。			今の日本を“知る”ことは、すなはち、君自身が将来“何をなすべきか”を知ることでもある。				
キーワード							
日本再生・発展とその対外発信							